

千葉県内では、7月上旬から続く猛暑により夏物商品の消費や観光地の集客が盛況

気象庁によると、千葉市の今夏の平均気温は概ね平年を1℃程度上回って推移し、特に8月中旬は平年を3.1℃上回るなど、非常に厳しい暑さが続いている。7月～8月中旬までの猛暑日と真夏日の合計は38日間（うち猛暑日は6日間。前年同期は同31日間、1日間）となったほか、最も気温が上昇した8月11日には、県内の5つの観測地点で最高気温が観測史上1位（我孫子：39.2℃、船橋：39.0℃、千葉：38.4℃、茂原：39.9℃、木更津：37.0℃）を記録した。このため、7月中の熱中症による救急搬送者数は1,349人（前年比+56.7%増）、8月入り後も非常に多くなっている。

ちばぎん総合研究所が猛暑に関連した千葉県内の消費や観光入込動向、農作物の生育状況についてヒアリング調査を行ったところ、商業施設・コンビニではエアコンや日傘、涼感寝具、アイスクリームや冷たい飲み物などの夏物商品の売れ行きが好調で、前年を1割近く上回っている。ビアガーデンも売上が前年比2桁増と好調なほか、海水浴場や屋外プールでは、7月半ばのオープン後から来場者数が高めで推移し、前年比+3割増の大幅な伸びとなった先もみられた。一部の屋外観光施設では、熱中症の懸念等から猛暑だったお盆期間中（8月10～18日）に客足が鈍ったとの声も聞かれたが、全体的には好天に恵まれたことから、各地で行われた花火大会・地域の祭りも盛況であった。（岡山）

◆千葉市の平均気温、降水量 (°C、mm)

時期	平均気温				降水量	
	11年	12年	13年	平年	13年	平年
7月中	26.8 (18.0)	25.7 (15.0)	26.3 (16.3)	25.0	45.0	122.5
7月上旬	27.5 (8.0)	23.4 (0.0)	26.2 (5.0)	23.6	11.0	50.2
7月中旬	28.5 (9.0)	26.9 (7.0)	26.7 (5.3)	25.2	2.0	38.4
7月下旬	24.6 (1.0)	26.8 (8.0)	26.1 (6.0)	26.2	32.0	34.0
8月上旬	27.5 (8.0)	27.4 (8.0)	28.2 (8.1)	27.0	17.5	39.2
8月中旬	28.9 (8.1)	28.2 (7.1)	29.8 (8.2)	26.7	2.0	42.6

(出所)気象庁

※()内は左側が真夏日数、右側が猛暑日数。

▽夏物商品	日傘、帽子、扇子など婦人洋品の動きが良く、特に日傘は前年を+1割近く上回っている。夏物衣料品は、例年は8月半ば頃から販売が落ち着いてくるが、お盆前に暑さが戻ってきたため、再度動きが活発になってきた。UV対策の化粧品も良く売れている。家電量販店やホームセンターでは、エアコンや扇風機、涼感寝具などが伸びている。特にエアコンは前年を上回る売れ行きで、電気料金の上昇を背景に、価格が高くても省エネ性能が優れた商品の人気が高い。
▽コンビニエンスストア	猛暑日や真夏日が続いているため、アイスクリームや冷たい飲料は前年同期比+1割程度の伸びとなった。特に熱中症対策のスポーツドリンクや、大容量(1.5リットルサイズ等)のものがよく売れている。
▽ビアガーデン	晴天で暑い日が続いているため、売上高は前年比2桁増と好調。予約無しで来店する客も多いが、予約の時点でかなり座席が埋まっている状態。
▽屋外プール施設	8月半ば時点での来場者数は、前年よりも+3割程度多く、震災前の10年を上回るペースで推移している。7月上旬から暑い日が続いたため、開園当初から来場者が多い状態が続いている。8月入り後はお盆にかけて蒸し暑さが増したため、来場者数がさらに伸びた。混雑のため駐車場が満車になる日もあった。
▽海水浴場	九十九里町の海水浴場(4か所)の7月の入込客数は、震災前の10年比では約2割近く下回っているものの、前年比では+2割以上増加した。圏央道の開通効果や晴天・高温の日が続いたこと、観光客の海への警戒感が薄れてきたことなどが要因とみられる。富津市の海水浴場(5か所)でも、7月は10年比では約3割減少しているが、前年比では+3割増と大きく上回った。8月入り後も多くの観光客が訪れ8月20日時点で既に前年8月の実績(8月1～31日)を+1割近く上回る伸びとなっている。
▽レジャー施設	猛暑で気温が高くなりすぎると、熱中症の懸念から客足が鈍るものの、好天が続いているため7月、8月ともに入場者数は前年を上回っている。
▽花火大会	昨年から開催場所を幕張海浜公園に移した千葉市民花火大会は「幕張ビーチ花火フェスタ」と銘打って、日中から街コンや県内で活動するアーティストによるライブなどのイベントで盛り上げ、昨年並みの約30万人が来場した。震災の影響などの理由から3年ぶりの復活となった「柏・我孫子花火大会in手賀沼」は、従来の手賀沼周辺3会場に加えて新たに利根会場、柏の葉会場、下総基地会場を加え、全6会場で開催し、打ち上げ数も10年の13,500発から24,500発に大幅に増加した。手賀沼周辺3会場は計41万人と前回並みだったが、新設3会場で約3万人が観覧したとみられており、新設会場分が純増した格好。
▽祭り・イベント等	柏まつりでは毎年実施している「柏ねぶた」で新作のねぶたを投入したことなどから、来場者数は7月27、28日の2日間合計で約70万人と、昨年の68万人から+2万人増加。同時期の7月26～28日に開催された茂原七夕まつりでも、前年より3万人多い85万人が訪れ、震災前の水準まで回復した。8月9日夜～8月11日に幕張メッセ周辺で開催された音楽フェス「サマーソニック」は、3日間合計の入場者数が合計16万人にのぼり(前年13万5千人)、街全体が活気に沸いた。
▽農業	暑さが続いていることから、大田市場への千葉県産野菜の入荷量は前年比やや少なく、7～8月で約1割程度減少した。8月以降が旬のナシは、春先に好天で花が早く咲いたため生育が早く、例年より早めの7月20日ごろから出荷が始まったが、全体の収穫量は例年並みの予想。千葉県産のコメも、梅雨明け後気温が早く上昇したため、平年に比べ出穂がやや早かったが、収穫量は例年並みを予想。米穀データバンクによると、13年度産の千葉県産のコメの作況指数は101で「平年並み」とのこと。